公子の他職政者のの御見送りを受けるせられて御田門御参内、

晴れの御婚儀を終へさせらる

銀成年とともにい

め奉一今回アメリカ同け配船の各船は左

外務、遞信兩當局談

【廣東二十一日同盟】法幣安定間 | みの狀態であるが、法略安定資金 | その動詞を正聴されてある、

英米蔣の意見對立

のためさきに日米前級合の | 月十五日、船等六百二十六名 | 三十六名(新田の歴史だりしを | 一日、前に勝いある変更を演更を演更と | ▲龍田九、極海教師、羽日十 | ▲氷川九、十月二十日、二百 | 八ノイ在動板時付の服装、野町 | の通り整数したり | (以下との種) | 日来館の服装、野町 | の通り整数したり

司令官着任 比島新空軍

【ニューヨーク二十一日问盟】

はこのほど完

その夜、青山

東御殿

で南殿下御揃ひにて二十七日御

一月中前東京韓御殿、山田

あるが、神宮、山陸などに御奉 ◆二十九日畝傍山陵、横原碑宮な

題下には干後二時四十分各宮殿下をはじめ塞り御近観の立花園忠子夫人、東濶泰文子夫人、殿記直衛子夫人、

かな一ときを過ごさせられつつ、やがて 厚東別當以下宮家職員などに賜謁御恐悅を受け終下には初めて御寛ざ遊ばされたが、午後六時半からは 兩殿下御揃ひの御祝膳に御なご贈めるまを終くさせられた『恵寿子』分の製足御闘巌ばされた、晴れの御儀を 滯りなく終へさせられた『豊め式を終くさせられ

それで、晴れの御儀を、滯りなく終へさせられた「暖になれた、晴れの御儀を、滯りなく終へさせられた「暖にな 天皇、皇后の際下についで同五郎大皇御所に御の際、撃天后

同夜九時 からは 光榮の 日野西資博子が調進申上げた三箇夜のお餅を奉

心から感謝に堪へない次第で

靖國神社行啓

京権の御成職を書き落ら祖氏の変が喋くまで見られた。 下後九郎大泉で三面を戦の御襲も終っさせら、自使青山東御殿の門は形色の大橋門が赤々と美しく職いて大泉の御歌がを掲げせれた。 素問からひつきりなしに職いた御里者の御記様に離んて総映の記載をする人々は夕頭まで撃まに世間には影響のできりなした職いに報告のでは形色の大橋門が赤々と美しく職いて大泉の御歌がを掲げせられた。 書間からひっきりなして編集を表して職いて大泉の御歌がを掲げせられた。 書間からひっきりない

橙色の大提灯美しく輝やく

国版下におかせら

日同神社に行客、総しく漫画の展神社例大祭第二日目の二十三

れ御髪止門の大戸が固く閉ざれて目出度さ神無月の歌奏

けふからの御日程

【ヴイシー廿一日同盟】フランス 一、元老院の定義は二百五十名と

起草終了、政府に報告書

ランス新憲法

禮を言上遊ばされる御豫定と承る皇后兩陛下に御對面御禮を言上遊ばされ、ついで皇太后陛下にも御皇后兩陛下に御對面御禮を言上遊ばされ、ついで皇太后陛下にも御墓内。天皇、二笠宮、同妃兩殿下には二十三日午後一時半宮中に御繆内。天皇、

けふ宮中に御参内

御成婚を壽ぎ奉りて

東條首相の奉讃放送

せられ鈴木宮司御先等にて御修門、御順路を同郷址に行密あら

【東京東西】時れの御殿院を終 | 様と 御製館、また 赤坂東宮陵|

里朗さにお出まし遊ばされ二十 お招きでお願ひにて華疾曹原田 世七日

お揃ひで御四下

館下に種類面の概を言上鑑せる 門宮城に御業内、天皇、皇后南

太后降下に御縁首上の御のち渡

陸級高等官

東峡自相は11十1百数4・Kマ 1500円の間半層楽え豊き の領政戦を書き添りて」と際して 一部高級下組織事をお祀り申上げ 左の近く進みて撃震派を登りた 1000円の間半層楽え豊き の領政戦を書き添りて」と際して

| 一次十分間 三面宮殿下 | 現くも |

二笠宮、同妃兩殿下

誤三箇夜餅の御儀

棚頭に立つてゐるのであって、 医園民は擧げて君園の爲に一

朝見の御儀に御参内の三笠宮、同妃兩殿下

【宮內省護寫】 蓮電送

> 日间图 過数 上三十二

古賀司令長官第一聲

ないが、歴代長官の後をうけ聖一

翼賛會副總裁 に

安藤紀三郎中将

就任を正式に受諾

所数を大型左の近く離った「常

平リ 車月 頁八共刊夕朝

國の決意を励め、以て 石に噛りついても 聖戦を完遂

竹の園生 われ一億の民草は盛つて

満洲國皇帝陛下から

水産局においい。

满

洲誠

經

濟

0

(講)経済を

刊

| 東京中二日同盟 | 東流機 御成婚御祝品 國産品の數々を奉納

東御殿に鏊向皇帝陛下の御破々ひかりゃで東上、青山 徹底はされるととになり、

腽肭臍條約灩

編會話懇濟經時戰設常。薦推下閱監總務政野大

問制統濟經鮮朝

味物につき密螺数府は昨年十月二

現地作業開始 泰佛印國境確定

振報

弒

京 二十二二

会社学館には乗り深い動産は「躯中特性」子」日午後人景し、直「をうけとれを吹磨した「鰹々十四 馬餅に鼻ぎなかったが、古墳場号を図った「電」「鬼屋を置」大数衛観響開機器にしたに気が誘った「気を関する」「大数衛観響開機器にしたに気が誘って見なが、右側対策器を除オットセイの数は「右側対策器を除すった。すればちょうでは、「一般を大きにしています。」「一般を表現したのでは、「一般を表現したのでは、「一般を表現したのでは、「一般を表現したが、「一般を表現したが、」というでは、「一般を表現したが、「一般を表現したが、」というでは、「一般を表現したが、「一般を表現したが、「一般を表現したが、「一般を表現したが、」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現したが、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した」」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」」というでは、「一般を表現した。」」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現した。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というでは、「一般を表現りまする。」というないる。」というないままままりまする。」というないる。」というないままりまする。」というないる。」といる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というないる。」というな

主

婦之

友

耐

好

東京・神田

R 法 大 森

命拾ひの配・快客の娘・結婚の思ひ出・名古

屋から見京へ・加事似水・近頃嬉しい話・若夫郷継(日大の一部)・もの後は、笑行・成らが注えに・衣(日大の一部)・日本の後は、笑行・成らが注えに・衣(用書を魅了して止まない。これは新秋趣下に鎮用篇訳として文名を描はれる大春洪太先生の作は、

總督府明年度總豫算額は

五億六千

員

脱腹を示さず、これに悖らさる 感して現行のラツコ、オーはじめ られた、からいして政府は本鉄約の を懸った のち勝さ 明りとの 職事製売差別りとの 職事製売差 機自四十キロ、間土駅側が

ŦIJ

なる

-

|悪した、少を前輪や新観要表大・置いて奥訳したとを如言に決して「月匆々内示する方歌であるか、総||観光||観光||一番とだ、少を前輪や新観要表大・記事。 心がないもの こみに即数を (行つてをり本月中に立を示す、米) 関助後に落考く複様である

||歌子子裏地に地吹すれた要求戦| | ある、而して芝に関し本格は象点。同一版四、五子裏側窓接に「地吹子裏地に地吹すれた要求戦 | ある、而して芝に関し本格は象点。間一版四、五子裏側窓接に

十一億五千萬圓前後か

米向け邦船發航す

▲大洋丸 + B二十二日、三 (壁)

外務辦合二十三日

日米間旅客、郵便等の停滞緩和

外務、遞信兩當局談發表

米驅逐艦ブ

生活の改善。本多式貯金法、幸福の破離。宮と子孫の問題。寒蹇と結婚の常敵(目次の一部)。私の生活官様、懸魔の進来化・動きながら発展なる主動を決立け避難できたり提供をつけるが表現した。そうされば得られるかを読いた生活の推奨書つた機動から、関の幸福は何か、どうされば得られるかを読いた生活の指揮書の「ほんとに幸福な人である」と眺からも見られてゐる博士が、剛善して今日を創している。 定價一円六十銭

小愛する生活

一月十五日發行)

大佐】 ニーインチが

当後射管一〇門 ¥ 1,20 ¥ 2,00

帯打合せのため二十二日午後五時

総裁東上 川蔵の数は事

回艦の性能およ 養放さ養修いし新 /3成刷增大込申。濤怒/嵐。讃絕/羅網此/威權此

交锋是本 容陣の群刊旣るた々堂

我你安**枫河**渡安旗河東 城市本 福港保山數村 立黑髮

居所七郎・新僧が郎・後野時代ご数値即

開蘇

Č

拉式蹴球

(A) 村田田橋出 (A) 村田田橋出 14 T 10000

||を開★母と子の☆常會用紙 岛戰生活。基準 座談會 月 爲の檻軸童話選紙芝居の一試案 號意

★說小 戴连★ A 庭。後午 「成の冬 作(本家(明五年) 行發社罰新日朝

錢十五價定



動きやすい 住主 を慣六十銭(高銀) 無無常然(元立七章 婦女界乱をした) 大二濱(木) 浩 総ののののでは、1年 ののでは、1年 のので 生服が出來る時間では 歌・齋藤劉一青年將校・大鳥見力・田代金宣一妻への感謝白黒男女や二刺親に適切な宗徳を興いる必縁院

こ◆保健中心の婦人子供服温か お温かい下酒の作ら子供服の更生●

康婦人子供服焦

目錄 為 書 法人電話銀座(な)二五五五・七四四四法人電話銀座六ノ四交前とル

難に強調に加る

◆小門 所送報

大王急採用機定部数の側通報を願います。 度に御採用の教科書は、採用豫定通報書の御提出を願い、それを纏めて當局へ提出し、用紙の配給を受けて 準備することになりました。 工場·鑛山用

脱功であるこ 観響なるもの 二月銀 一覧

部定豫用採 願を知通御 急至數すまひ

left急

松立青年學校用 工業

學校用 告

これ、なは石服 かねて設立で帰れの東京式で入野、この及答は大 整つたので来る1 下四日や後二時が、この及答は大 整つたので来る1 下四日や後二時のよりながられて設立で帰れる東京など、より京旅艦港において他立場者を

總額

食糧緊急對策

科教

技能者養成用

年七十和昭 用度

皆勞へ鐵の樞軸

育道に結成準則通達

感を奉る大内山の御屋び

德露宮の菊花馥郁、けふ朱門開く

早速。富士を献納

廿三部隊立山大尉は語る

天下御免の豊年祭 來月二.三の兩日擧行









医学博士 及 宜 茂

防空研究會

は悪國の神と家まる父や子と限し一心からの世話に現れも思れといる。開門支信電話日籍國の社にいま「ト勝者」は新国様各郷人會々景の

昨夜の連絡船で歸鮮

謹嚴な日常生活

叔父東鄕外相。の横顔

學校總力隊

朝鮮陶磁器面組合聯合會

無代進呈

東継道食料品卸商業組合設立 ・東継道食料品卸商業組合設立 ・東継道食料品卸商業組合設立 ・東線道食料品卸商業組合設立 ・東線道食料品卸商業組合設立 ・東線道食料品卸商業組合設立 ・東線道食料品到商業組合設立 ・東線道食料品到商業組合設立

告

億一心臨戦の秋 新債券賣出し りましたか!新債券!

全國主製都市二十四ケ所東京 市 麹町 區內 宰町

六. 野鷹 東震 谷

デル者ニシテ修丁模定師セントスル銀山ノ推腐 時十八娘以上三十五樓来郷、島間暗野、相は 十八 二、署成都周 四ヶ月

朝鮮總督府指定機 EE 第3 隨意院

誉、協力一致の大精神

カーじ

利元就公の残された 億一心、昔は百万一心

トーサン式相を開くころの第一条 石 一サン式相を開くて リーザン式相を開くて リーザン式 相 米 説

東山産業株式會社 裡里•木浦•奉天•天津,;...

Ç

野地少將談(この間の間には、日日で間に異対なる無持)、「曹操を除っておりませる。

我ら學生は斯く征く

判る離先の心』

千餘名が團結

臨戦報國團を結成

けかの天氣

間じされて 帰い血となり肉となって 祇原ボル

S機な症状の方にセと の機関形で取出力をあたてる事であります

毎円の、郊目は質問が意識してみても

尚貴豊漢藥配合

語りなから





至一日 九

◆低温生活の刷行

♥温突使用の節減

干白一十八階と

に牧場の提乳設備の衛生検査も

上午十日間に配る域がな防証が

温突もチョ

p

京畿道の具體案決なる

◆使用人に對し温突と ・ 大の訓練 ・ 大の記念会数 ・ 日本の過版を歌め、日日・食は常 ・ 仮を制度すること ・ 仮を制度すること

沿軍から襲取しで熱心に質問い

搬性 なかつた

自分感では、際長に中村富君がはなかった。源町青年隆元町四

制服の整備量がない、

賢も高らかに

皇國臣民の誓ひ

隊員の要多を充たし、青年隊員の | 町を銀設するには、自抜選り大道 答記を回収、その翼上げによって一蹴動してゐるが、先づ明郎既全な

に『出して、町内の全意國班を一に懸式を流してあるが

の愛國班防訓の最後を飾る

を狙った一石一鳥の名楽に、関係

坂田校長詳細に語る

ての効果は質に立意なもので、冬

事政局総會ではこの世第二事政会

れることになった、同僚者では場

企職で、実施と云ひた-の職で、実施と云ひた-

M 液熱力陸結成式場となった

自給自足。

野菜の生産進明高女で

る時、結核療派派置では、全國

八百四回の不正を使いてゐた ●同様手段で収置、合計四萬二千

X

利

(37)

は二十六日午前九時から同後々庭

體育法會

どろの能ひを解けて

皇民的理想に 南、奈良兩大將旭丘內鮮共學校へ 四番節を除すととよなった。 の頑張り

特一校内に飾つて顧賞用と共に要量の育一る花は質に立派なもので、これを 空に自慢の香りを成って彫めあけれてあたが、怒上秋も深まって秋 勝力して毎年種々の縁を作り に開発部員を初め、全核生は一 かしい一葉となって、學園の乙女を認へる同校否領害の食糧陣に課 幼兒の診斷に結核豫防協會が

るよく今回の第二孫のには甘名が

合うと共に同格質質量に休憩中

定派制に取って各へ、機管も影放田政次郎氏に質問し、坂

一斉に何か手落ちはないですか、國一収容される 健全な町を建設

防訓が終るやいなや皆勞へ 阿峴第一區の聖汗

既比以来、これではいけないと制|町棚代の肝限らで、町の清橋運動|を行ひ、或は切れた艦の梱り起し「自分総では、除陸に中村猛恐が「てゐる…師風第二〇間雪では佐旧」して、ヶ世党だく「ケノを液散消輸 には一時齢を指した國民管影派師。手に寄や幽取りをと明朗が前の建院が誤解が終るやいなや、又も前一十九日から状俗さも物ともせず、 (東) レコード▲-1・○(大) 「此)

「例によって無謀だナ」 そんなことは、着へちやをい

さき分け方「リズム」大・00(東)音の

校内の温光に出来る県道職費用の一串台部地として一般に呼びかける

| 景福中原校では、十年前 | 今年は思さる一屋飛びにやって

様た、併し 目下のところ 京城府も燃料の貫進りに圧発してある宿 て、肝氏を聞へ上らせたが、面喰

内の新、木炭の出郷りは潤澤だと

景中床しき精神

冬を削にして燃料配

◆可燃性優物の利用

我らが學園

(東) 時報(城)今日のラユース(東)時報(城)今日のラユース

「さうかも知れん、が、一度、慰るのでせう」 一見のを感ぐことはいるまい。す」 ためて御奉公する方が、病後の資自重して先づ國内の仕事に、あら ぬなら、南へ 行つて死に たいで

な話だが、全く 「鼠内、社會のととは、人間をよ 自分のすべてを、人のととのやして 隆の様である。

せう。江戸の川の水は、英國のロ

行ってみたいですよ、今年も情が云ったが、 と、騒は、質を振るやうにして 、紹介するから戯れ圏にみせ、 見に來い。うんと、なっ

| に無重男士の歌| には何よりも大切な生中乳を供給

牛の健康診斷 西大門署で乳

「称さんの家を、たづねようちゃ

一般った。

受子の機、なたらかな歌顔をもつれた。とつとりと観がわれてある。歌子ざから献もは、れたとつとりと観がわれてある。 野子、伸びなければならの上 間しに行きたいんだ」 情なのた。 | 一点ひがけないととを、 W然 なのである。「裏の知れん役に出て行きたいですなあ」 | 事の大小を同はず一貫に役い 山中 にも対策をたがへるなど、およそ中氣 **峯太郎 (作)** 清(書) 最 適度のノビを持 オリヂナルクリームは 良の

かな荣養 膚桀

(駅上削番割り上日四十二時)

一學堂《上映

に皮下



朝日座

Č

型ではその日事な訓練よりで先の 無論いは表生を顕真 観光者を編集のに形然歌音、観光者を編集のに形然歌音、第二回日の訳念編 職論いは表生確実は他らに無誠副第一回の訳名編書を編集としたが、消火、研書に知

では今後家庭に、り世となられていた際、とても都市防衛は出来までは今後家庭に、り世となられていた質点に乗送の撮影を乗って

市町一四個被江東個共富領電主人

てしまふわけたが、との薬職

・しかして完全に太陽を食つ

門署教養祭では廿二日村の子前町

機械工具の間京雑芸

に二時間ほどあてるとヴィタミ

ンDが發生するといふのである

防訓に俄然奮起

起つ淑明女專見事惡評を挽回

書ではその見事な訓練よりで先の

的形型女屋校中建一の揺籃を行一がこんなことではと深く歌歌





à

の戦闘機

翻

後

男

殿下(宮郎にて=麓寫)【御右】参内の百合子姫(今高木郎にで)

述電送

れた二十億三億 天皇、皇后 内陛下 には、松平宮相総派を着びさせられ年度三億四十分衛出世、雨び御巻内あらせら杜側取寄入戦が歌を着びさせられ年度三億四十分衛出世、雨び御巻内あらせら相取寄入戦が歌をにはローアモンタントに動二原

床しい、供職の卸儀を行ってはせられた、かくて郷下に床しい、供職の卸傷後を行きをはしめなり即義を第三て十唐事券除三年旅仕し、古式、御鵬者、御切憩のより即義改著その他の旅班書に下明十時年別版には熊原万をはしめなり即義改著その他の旅班書に下明十時年別版

数、郵配の記載をなし、やがて賢所の測器を終くさせられた関数下

遊ばさ

を終へさせ られた、観察にはそれよりさらに方量所 悪夢する旨あり、兩殿下に親しく御杯を賜ひ朝見の儀皇太皇皇

巨陸下に朝見の式を行はせられての

御殿に差点はされ御書、第一重、稲

叙勳一等授實冠章

く動一等質は草を穀職あいせい三弦質に自己を

※御使をはじめ東條負相、松平宮相その他交 武顕信らが相つい 【東京崑話】側層びの日の青山東御殿には午舶九時半ごろより答宮

ロフ将軍およひその幕僚の

のがある

獨車モスコー

近年は連結工業の豪雄自襲しいも一日富地に選した各種情報を綜合す一

都防衛の總指揮に當つてゐると一都防衛の總指揮に當つてゐると一

白藤の陸海郡軍曹員参集して厳酷 時朝縣軍司令皇皇帝、管上二千八 盛大に塞行した、この日南山の窓

を持して『魔を突破せよ」で別是を注言、イルター

に別是を示げ、不動の道人物弾に当員、致し継ばの意志をもつ

に移り、

府氏館の諸湖豊に出席 野ぶいて市場

心静をあたへ、極寒第二年に俟

原は紅葉に彩られて秋霜の領は一

脱呼をする機能な統令は、何事に

は地下の耐燃下における機能の影

しは肌に合たく、各分隊毎に呼名

式動脈で人类、つどいて板頭取引 を読める、南郷暦は辨軍大阪の略略へて干城として起つ郷軍の意気

で官、水津京城船城長着席、式は

べとなって断進さ

森山少佐越指揮官となって消あら

獨軍ダゴ島を占領

三笠宮殿下輝く御婚儀「御宮」晴れの御参内の三笠宮

機車航空隊の攻撃により大部分

【ベルリン甘一日回盟】總統大本

(パルリンサー日回馬) 場合で 獨伊兩軍スタ

始したといはれる

|曹本語では京都宗教徳に東本規雄・支地では日二日平間人共年明韓頃||蜀のうちに頼ら立ち、傾日央皇を帰署するため帝國は奉献人||帝に遂行、これに守成して京本しく九等を遣べ、傾日の皇皇を

一部に塞げ、これに守添して

大一 過ぎを回回、郷質、川田市自 と言語と言べて希面の本分を思い

大郷に破ると結束、重要に振げる「憲宗衛が職大者を十七日以来」

がその周邊地域を占領した。場別的量は廿日ドネツ盆地の

マツ軍は廿一日リガ黴のダゴ島 | の結果ドイツ軍は今後ハシゲ島、 ルリン特電【廿一日 | ソド酸の人口にあり廊港五百年方

哩、軍事上の要地である、同島占領

ロンドン特電【廿二日

、廿一日公地で別受したモスコー放送はドイツ塩がモジャイス ク地區で戦争中和地するに成功 したことを認めてあるが、他の 、以前では困場にドイツ塩を単七 してみる言葉じてるち

たを無端して一気に前識を無けてみたを無端して一気に前識を無けてみるが宮地BBC機会脈のラジオ版

聖業完遂の誓ひ

鄉軍京城支部祈願大命

送によればドイツ軍は廿一日一萬

大千台の戦車を先頭に押し立て、

聯兵三萬を捕虜

殿邏御

北上の日時に流色祭

宮內省告示

皇祖の大御前にて

千代を契らせ給ふ

賢所大前の儀終らせらる

第内省告示第二十六 宗をもつて左の如く 養表された 「東京路話三笠宮、同佐爾地下の 政かなる御信がは廿二日居内省 ○ できるする。
○ できるする。
○ できるする。
○ できるする。 「東京の西東條利は丁二日

首相ら参内

九川甘五分零內,宮中東通車寄

御慶事を奉祝

に於て三弦宮、同妃園下の御屋

明年 - 第八大山 松平 山雄

シ密が、記録をなし返下したが

【ワシントン廿一日同盟】 アメリ 米船武裝急務

ル長官强調

撃沈さる

黎につき十二日番線を飛ば、まつ 経ばに気に重える しららの中立法中に輸送要素に保事業止 日設プアメリカ脈脳の攻 点言を誘取した、ハル長当はナ公開曾議においてハル域務長官 **间附 ワシントン特電** ド連合にてパナマ國語の 難決事性が重要しつくる

高明によれば同歌電 た言葉表した、なは順な

横山凰長ド 總督ご歌

行方不明となった ンドに上班したが残骸の

一七名は無事教助されて

時半トター流費を訪問

掌典先将申上げて賢所外陣の御

をり、三條室典長瓶子をとつて神酒を奉り、三條室典長瓶子をとつて神酒を敷下に上げた、次で庭田学典素焼の御盃を敷下には「一大の大きので、一大きので、一大きので、一大きので、一大きので、一大きので、一大きので、 神々しき皇祖の大御前に恭しく御拜禮あら殿下御左に妃殿下とそれが入御座に御窓進生するます。と、『十十十一年 られた、この時廿一發の禮他は大内山に谺國く契らせ給ふ御目出度き御儀を進めさせ妃殿下これをうけさせられ、こゝに幾千代 タン部門副と言い所収 に翻する日州以方の勝力恢復を述べ合優日ふべき **漁川の海水瀬々温敷**

るうちに御扉を開き醍醐掌典次長以下奉仕し神饌幣物を供し奉り三條掌典長夢卑氏勿を正して恭しく大前に参進、午前八時神樂歌一しは莊重に奏せられ神の常磐の色も鮮かに神々しさ限りなく飾られ「賢所「皇靈殿においては三條 極齢 断の御儀は瑞祚限りなき大内山の御奥森厳なる賢所大前において、いと御結婚の御儀は瑞祚限りなき大内山の御奥森厳なる賢所大前において、いと

畏みて祝詞を奏し奉

根次官、武者小路宗秩寮總裁 以下宮内官代表は幄舎に参着

られた、これよりさき御慶び皇族殿下にも御幄舎に入らせ

秩父宮妃、高松宮、同妃各殿 なき光榮に恐懼感激して着床

せられ、こハにて姫には三笠宮妃百合子殿より参内、同八時川五分には綾綺殿に入らより参内、同八時川五分には綾綺殿に入らより参内、同八時川五分には綾綺殿に入らは巻とせ宮内省差廻しの自動車にて縁故者供参らせ宮内省差廻しの自動車にて縁故者

下と御身位彌貸き親王妃と成らせられたの

御同乗に

得子夫妻もけふの限り

供参らせ宮内省差廻しの自動車にて縁放者店の御守り刀を持して陪乗、土居事務官御店の御守り刀を持して陪乗、土居事務官御れた広安られ、高尾御用取扱は錦の袋に納めた左安れたのち兩親を初め親族方に御別れを告げれたの

は、御参列の皇族方御拜禮、番長の拝禮のの高家を語ぎ奉るうちに御儀を終へさせらして全市に源きわたり奉祀の市民は画要下して全市に源きわたり奉祀の市民は画要下

きは麗しく、御使より有小い御旨を拜せら長袴の雅かな御裝に腐たきおすべらかし一定紋の綾も優しい小絓をつけさせられ濃黄

うせられた。 「中國海にて宮城御出門、青山東御殿に入 理國海にて宮城御出門、青山東御殿に入 建設のそばされて午前十時十分御同乗の自 年のち兩殿下にはさらに皇憲殿、神殿に御

毛絲編物館

御機嫌御麗しく青山東御殿

お國を護る

きはだの地色、藤の立涌の地紋、衆に柏の車務官が急着したが、姫には書の御庫衣ににては午前八時宮家より御迎への御使土居にては午前八時宮家より御迎への御使土居門二重橋正門から御巻内あらせられた、光門二重橋正門から御巻内あらせられた、光

動語を賜ふ

三陛下に朝見の御儀

三陛下から御祝品

相澤武官陪乘、厚東別當供奉の自動御劍を御佩用、御笏をとらせ給ひて

東御殿御

概がな実験の色が弱も流れるはかりであった、との日午町九時点 製を置くが輝く井一百の空はほとんど一覧の裏なく真な高く液み わたり、傷の縁も1 しほ欲日に色更えて常秀木砂る大内山はたた 別の縁も1 しほが日に色更えて常秀木砂る大内山はたた

百合子殿下には午前十時州分、砂の御回郷にて宮城御出門、宮城智昌殿下ならびは今は郷土地としての郷末御財宜につかせ給りた。 くも宮中饗所大師において護千代の園言御史りを結ばせ給うた三 冠に儀 服を正さ せられ 金御袍の御束帶黒繁紋垂纓の 藤伯の御介添にて黑穀雲鶴のの御のち高倉永則子、室町公 にて早旦御潔齋のうへ御日拜

3AH-90

下に御野 網販の供き日 天皇第下には平後一子の他を「チー」 山城だち、一直臨寒域に患振い男女の恩生研究 発仕隊、その他一 **礫びに一しは巻畳い値敷へ御器点。 御敷に入らせられたが、** 翻尋立びき線土配とならせられ 勳一等實冠章 御隆川を作り奉る

されぬのた。 大事を手足 怪我、やけごの 癒りも速いノ 早いほど お手當はオゾで… 一五十

ニキビが得意色 黑 癒 しと いっます。輸出先 横、佛、米、英なります。輸出先 横、佛、米、英 始めて削られた新時代の洗顔料。の清掃力とを結合した魔進日本で洗顔クリームの美白力と高級石鹸 一効主 靴ち皮や医 中が接続と表

部に基備肌 制な防備 動れり着れ

オソ本舗 都 南 、莊.













人戦を挑 み石がに高し

堅牢鐵の如き學園を確立せよ

窓域(上)境の部級

、學徒は戦つた

心技一

如の體育祭典

御理解ある殿下 涙の出る程感激 台覽試合の半島代表者が語る

一個着生があ一勝戦に三笠富岩蛇の栄を添くして

青年単徙に賜りたる物詩を泰領 宇副十時十五分開式、南都督が



いてより、京遊り歌音が全一度呼吸などよぶ労労助的が明はれる。 いて忠徳の名歌舞中であった。 一関に魅力は、俗を得たすべく教皇の即事のを

役行数ノ

H TO TAL

場開時九朝早 曾 りよ時七部の夜 すまれら見回一部全 座治明竹松

曉の初霜踏んで 地軸も搖ぐ白兵戰 り、野側陣地かは最后だる日間が 一類阿里河を挟んで他を股々と北 劉院、眞紅の太陽に休戰喇叭 る終陣の秋生學武練

訓示要旨

練兵場地均し軍用道路工事等

世五日から愛國班動員

故山下氏遺骨

防空研究會



华島義勇軍

滋瀬九甘部隊

精力減退に・疲勞恢復に・

八時五十分 院介人院加 後四時三十分若遊町西本願寺







齢者を招

大野總監力と熱の訓示

刈取九割九分九厘

||等米として申分なき立派さ













*

ーシンで引受けたし

.

F33



健康は二大原と四大の限を設

彼等の實践が こんなに 進歩して

Researceの機構品落があって、青年 関連され今日の種の準備に能認が

事に往事し、日の書れると共

家に対する信念は、たしかに日連又彼の佛教に対する定新意識と國

北極光

品作興新

のカメラがこれで準部数を促へてル的に成功してゐる、青島服一郎

か風襲たる大当原とかスペクタク ある対象である、ギリヤーク

東貨中央劇場(廿七日

大陸劇場

一部で大型作品、河水場 (廿七日から卅

た十一月三日至で (日三多家 が 別 間をお子裏「世紀は入む 、 別 概をお子裏「世紀は入む 、 フ 日映郷班下 。

次郎監督、人江たか子、黒川朝太の八日まで)◆東賀行草劇場 (二日か東)

高田総主連日覧「全町領「淡高田総主連日覧」へ町領「淡

味力の勢ひ

」ら四日まで)松竹大船住中、谷伏、野田原作、河水安原草、田中道代、野田原作、河水安原草、田中道代、野田東東町「野」◆竹田「南本人」

注目すべき大作

山にともつて不動の信念を得て、

課り」から受けた。非常にいった級じを映画「指導物

らう (京城中央政会局縣井 が找べの心をうつからであ

志

の協威を捉へてゐるのは書

ぐつと 一無に樹下した様 r

節ず」のいとほしい姿が何

ではなざまを守る長女 際止する融盛の機関車と、

男選の紫張した雌、その中

心部ひを思はするのがある家が垂を上すまでの傾重な

語でお辞録をした。

すると、その若者が、住しい國の数がないので、占物資ひは心臓の

そして、その古靴を聞いたまり

佐原氏は前に落ちなかった。そみ、

所哉、日本的な刀と美のみ飲かしら腹から消えない。

前の夕方、ちよつと資物に旧たと述びない、新しい総ならい」のには

日本的力と美

文字の筆致の群かさ、さう

佛の 現人種であ らせら

印としてゐる。微等の際には圓 の風を描いた姿を彼等の信仰 クをつけ、戦器は悉く一

にない悟りがあったのである。

て遊べる甥の姿さびしも今は亡き如の手編みのシャット 安州・河本洋一

朝鮮風物·生活·事變詠

村さんの館を見た。

はしきあとするめた。

「だがね、を与さん。僕ら暴騰が 私が入ってゐるので、を定さん

ら十三ヶ年辛樹して止める時に、

その場で呼ぎ返した。

私は国をひそめて、もう一度が

そんなに不思議がらんでもいゝ

〈李順自田)田月廿日帰四人官 ※

とろから一人世話してくれとゆま コミが感いな、窓川さんといふ支質はな、お前には持つて来いのとしないから駄目と

元山、久保・辰喜

大 邱 二宮登志子

時村さんが、場合を置いてから私

うん、あそこならえ」と思ふが

をほさんも知つてあるらしかつ

も、お前のやうにうちへよく遊び ね。前に居った際田さんといって

も受取って御輸送になった。

ば、結局は新しい時代に目覚める 一部なんか符合せはないだらう。 「またあんなことを当る」

時村さんは腹を立て

に置いてくれる。原則日本晋年に教 れば北るのだから、少年を占の常

佐藤ライトの

効 腹膜炎· 尿道炎

所行さの難だった。

細い眼がよけに細い。

曹値だけん、見込は尤分あつちよ

2

べながら否へた。

をはさんはお服の上に登録を眺 「その際日さんが、十五の年か

最り日に舞劇の居ればゆゑ知らぬ 一個 佐登 清

複響せんか」

「駄目だよ。今のうちにどこかへ 宥彻と着番へお捲の前に坐った

「旧代、藤寶人も配給になった]

れとるんだし

が、あの店は一生居つても舞式も

「何をいる。他の話なら知らん

よる電気が貼いて、外が弾暗くな ら結局お前の標に広込みをする者

店の将來を思へばこそ、道師から

はたなろ

軍事便いと知さが今看き四大き一武村幾久惠

けやら四層地華かに船出待つ漁

京日 明鮮品物·生 市井:美羅 東東

離まるの心地するかも 時しか記す君が名前を

二石 真難

的弦生の田中軍事監督の下に戦部来の大メロドラマであり、第一級 れた大作である「語細型の娘」

と歳月を態みなく使わたものだ

ざは様太腱、抵例省の肝限り

卸部、京城日報各地支局及脈資店取扱店 京城本町二丁目日韓書房 京城明治町大阪屋號書店

總力聯盟募集一等入選翼贅小說 夢は畳めるもの

断浸から難まれたんだから大火夫 d大敷懸ってこゝで話をしたこと

「いや、鮭の子は畦でな、僕は一で曽枇の跳長に桃まつてるんだか

のない主人に何もそんなことをし

てやったからと喜んでくれる心が

の優の原動類はもとより大能から。 常然権太が何故に要地であるか、

せるが、あくはそれよりも強い、せるが、あくはそれよりも強いと、力を認識に入れて必念を認識に入れて必必数が目立つ、一寸米縄の「大平印」「ヌエズ」等を担け よ

して是非御備置きを乞ふ、特に別州阿鉤『朝鮮人名録』の重産業、經濟、文化など遺憾なく收録、時局下萬人必携の書と上半年度版愈ま發賣!戰時態勢下に於ける半島一ケ年の政治半島における唯一最高百科全書と云ふべき『朝鮮年鑑』昭和 饗は何人にも喜ばられるところである 朝鮮

の斥候兵とを遂ぐ大作たらし 香門 撮影所が 陸東海岸 新作への抱負

田口(驛)監督 いてゐたー(初二時間、」、一ディ張りのコンピで、」」「由現と上田親がロー

滿映通信(三元號)

明物シー 動物となり組 映画機器 花 嫁 と 鍬大庭葉日 花 嫁 と 鍬 街の太陽回

日本ニュース (七)號)

Uしての僧値はありません、

婦和使用

ワセトンボ



調が 機は際を補き 果物サラダ

肝油製剤は正確

て観水に設してから共に観音引 切りとし皮はそ

命理調

松茸と小無の酢の物 膜りお腸で一寸のばし、壁で味を欠は日砂臓を含はしく炒つてよく

は好みに、乗は色彩り 極度に 混適値に切つておさます、辨と於算 つと眺をふつてもみ、集は近でよ あらうと、との大軍と丞相の威光

早急最寄り書店及本社各地支局販賣店で 御求めを乞ふ用紙節約の為部數を限定せるため 養賣當日賣切の與あり

京城府太平通一丁目

京城

日報

別冊附錄「朝鮮人名錄」四六版 一千餘頁

定價 臺圖貳拾錢(桑科二十二

35

誰も多びはせんちやないか。 佛心 そんなことに一生無命やつても よ、諸將は建つて、権のとなた 燃して 來て みると――とはそもし締めき合つてゐるであらうと像 せしの一幅して、前を縁てた戦

液体

馬も原もみな福口を厳して浦の屋だ。だうくくと押し流れて来る軍

濃厚肝油ビオスポンは

をお選びになること

表相の御船令だ。待てつ。 逸ま にはうに埋える。諸将

ピオスポン断面圖

白筋

肝油製剤の効力はビタミン含有量如何にあ のですから 必ずピオスボンの

如

け分草の界スーソ本日

れが有りますから 觸れゝば破壞され易く、効力が皆無となる ピタミンの性質は非常に微妙で、空氣光線 ある正確なものをお選びになること ビタミンを長期安定保存し得る確實なも くビタミンの含有量が國際單位で明記し スポンの如く空氣、光線を完全に遮斷し 保存し得る確實なもの、別力が皆無となる懼、別力が皆無となる懼して一人を受け、となる懼い。

四條單位 A 5000單位 を完全に遮断してビタミに破弾され、然も空氣、 ○○国位DI○○国位宣存
○○国位日○○回位宣存
○○国位日○○回位宣存
○の張力ビタミンA・Dの勝國
・主介から単奏効果は一層暗力
・経動単され、然も空気、光線
に設申され、然も空気、光線 糖等の禁養劑で糖表し 一粒のピタミン含有量





幸福の首途

対 智型を担こ 工機関後 くは島の脚地をかせた。 ・ 「地域」の名きされて米で、「地人は一人に一般ない。 ・ は、一れた山脈を出し、「人の間に難ない。」で

吉川英治(世) 矢野橋村(書)

でもまち野く展がつた。 のでも、泉簾金板に観を早め のでも、泉簾金板に観を早め ・ 歩へ迫って来た。 ・ にして、 へ、然は励いで数に掛け、馬足を しつかと野み鏑へた大記者が、物 しつかと野み鏑へた大記者が、物 は痛れをなしたか、たじくと、 派はすびみを残れる壁に

激しい人でも

日 日

球で

下腹痛は不幸の婦人の腰痛冷え

因

のを三種に分けて、

この敬臧に入るも、は今の時間に関する色々な質問を

男

かつのばしてやらわばならないと

師は新国的、林夫美子、鴻上版太 郎、小林秀雄、松井紫像の五氏で

であるが今要の感影行については

ていや。というが確かこれ心では、とか姿をかけたので、中のコソー語よでせら」

選ばしい宗教的生活集職が確れた

文章系品會主催の文義統後出動大 動大講演會

不来思想かよれた

宗教、

仏堂の

文藝銃後運

家を指揮し続四ケ月面、北支方面 長」の監済田口当氏はかねてロケ めんとして ゐる「新蝦」・墨椒と

古靴争许

は積壊的であり、明供であり、確して見てが、如何なる質問にも彼

信があった。この田名によくもと

化生活

節を立てよ後へ退がつた。

かつたり、又は幸ひに結婚し い結婚が病薬の食めに出來な 岩崩は女生が真の素種へ同

美容が獲べて一生を何み様けを括て、おくと不能は勿論、 なるのが特づです。萬一これ 勝や流が様々、月桜が不成に

けて行った方供とそ、

加へ、存分な収集を用述すべく、と、それに向って最後の難感を

ことに全軍の力いが集中されたも

この様に婦人疾患は若い女

け、大八の変才をもつて、八順六 さ、 「それつ」 ・ 大八の変才をもつて、八順六 さ、 「それつ」 ・ 大八の変才をもつて、八順六 さ、 「それつ」

一人の繋ではない。空興、曹口、

求め使用してから一ヶ月、腹痛も去り白情でも今では 四上地とて宏年の末頃より月經時に十岐部の編みを「上 たが或る時ワセトン球と云本郷を見付け早級問話より司 しい政態を優に主人の資家の不便な岸山台に住む、なれ 間やさいませる私国的年間でしまして、なっか

でく女性の新 の分も御服 の分も御服

結婚間もなくこの惱みが

で、風れた都を安全に、でくぬれた都を安全に、でくり出たする。安全は、大きな、日は一球、火台、日は一球、火台、日は一球、火台、日は一球、大台、日は一球、大台、日は一球では、気軽などは、気軽を強さ、気軽ない。相ができまれた。 (本学を派在のでは、気軽ないない。 (本学を派在させると同様に、4、味を深まれたができる。) (本学を派在させると同様に、4、味を深まれたができる。) (本学を派在させると同様に、4、味を深まれた。)

今: ズンです。レートクレームを 美しいおはを培ぶ絶好のシー お肌から絶やさぬ様に心がけ 魅力溢れる美肌になります。 ますと、キメ細かく滑らかに こそ



